

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢ひてエ

雑報 繁文

No. 695
2025年2月

も・く・じ

- 「マーシャル、父の戦場」ほか
- 山仕事(1月、薄場・島田市)
- お便りから
- マイナ保険証がもたらす未来
- 第4の被曝
- け・い・じ・ば・ん

123
2
6
8
24
25
26



ぬく
だら
の父
山頭火



泉ゆきを『心はいつも山頭火』
(日本習字普及協会)

メール配信をご希望の方は、

<suzukikosei.san@gmail.com>へ。

三宅伊都子さんが

応対してくださいます。

月 日 現在の
会員数 名

題 字 及
力 ット 佐村 隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)
力 ット 泉ゆきをさん(にっぽん絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※ この号の切手は

未来に残したい文化②

山仕事（1月、薄場・島田市）

今回から、静岡での山仕事は新世纪に入る。前日、里芋掘りをがんばったのぞ勝利旗信号が灯り、左藤の具合いも悪い。まあ、ほちほちやるか。

1月8日(水)、晴。高士は、五合目辺から上は雲の中。その下、南側の斜面は黒ぐろヒレ、沢筋だけが白い。今シーズン、雪は日本海側が主体のようだ。

天浜線森駅で、久米、竹中、若林さんへ迎えられ、いったん久米さん宅に荷を下ろし、正士さんちへ。暮れと特に変わったことなく、安堵。食事は自分で作るほか、めぐちゃん、妹さんとも通けられたとのこと。

正士さんも一緒に深澤さんの豊岡農園へ。「青島」の出荷が始まるところぞ、今回も大粒のミカンをどっさり貰いた。いつもありがとうございます。

買物組（久米、東江、原田さん）と別れ、チェンソーなどを積み再び薄場へ。日の短い時期、作業は竹やぶの周囲にイノシシよけのネットを張る準備。早めに終えて、全員で森町の銭湯へ。（300円、町民は200円）

次って、新世紀の作業の検討。ぱくぱく／日がかりで用意した直近4年間の毎月作業内容の表とともに、原田さんが中心となって検討。正士さんの持山の作業が冬になると、冬季は暇になる。原田さんの考え方、6・7月と10・11月に作業を集中することになった。近隣の4家の作業が中心で、正士さんちの関係では、草刈りを中心実施する。正士さんは、田んぼは貸すのではなく、茶園は「元気里山」グレープに使ってもらう意向だが、グレープも高齢化で引き受けてくれるか確証はないとのこと。その場合、茶葉の収穫は無視し、景観としての茶園を維持するにとどめようとした。

毎月の作業は無くし、2月に予定した分は、2月8日、湯谷（ゆや）温泉に泊まり、伝統の花まつりを見物することになった。

そして2月は、6～8日に竹中さんのつぶれた小屋を撤去することとした。

今回から、久米さんがチーフとなるて用意された夕食は、

（夕）筑前煮、刺身（マグロ、オニヤシ）、メサバ、切昆布とずしきの炒め物、ホウレンソウと春菊のゴマ和え、エビワタシ、白菜の郎廟漬、大根の甘酒漬、東江さんからの萩（山口）のかまぼこと竹輪としてねじシラスのおたきり。

20時、立憲民主党の小山辰弘衆院議員が来訪、懇談。森町内の各地を廻り、これが終宴のようだった。

1月9日（木）、晴、風がある。 すずと

2台に分乗して島田市の小澤幸江さん宅へ。クリの木2本のはか墓の樹木

整理。

竹中さんが脚立を使って木に上り、枝を落とす。原田さんが主幹を伐倒。山崎さんと若林さんがチェンソーを使って枝の整理。ぼくは手鎌で小枝の整理。この種の作業でチェンソーを使わないのは、これが初めてだ。体調が悪いときは、こんな場面がふさうだ。

(昼)春巻、ゆ養、ハンドブ、根菜の煮物ほのか、赤飯とみそ汁。

午後も作業を継続。気温が低く風もあり、つらい作業だったが、皆さんがよくばって16時前にさっぱりした。今後は、冬季を避けて作業をしたい。

黒糖羊かんと金平糖で抹茶を頂き、伊太和利の湯(820円)について湯場へ。

(夕)豚肉のすき煮、チゲン菜のシーチキン炒め、タイのあら煮、里芋の揚げ浸し、昼の残り物に北海道津別町のラーメン。

内田美智子さんからマドレーヌ。「山仕事ありがとうございます。ささやかな物送らせて下さい」とのメモが。いつもありがとうございます。

この夜、答史さんも参加。食事をしながら何度かの懇談。

前回よりさらに前進。家を使ってよい、カギも預ける。妹、叔母と時々家の風通しにくるが、その場合、猫の手の日程を優先する。家まわりの整備は、自分ではやり切れないのでお願いしたい。ヨサや桶ヶ沢、井戸谷などの草刈り、元気屋山が引き受けない時は茶園の整備も。家や電気、ガスの使用料は負わない。

ありがたいこと。これぞ山林を除き、ほぼ従前同様の作業となりそうだ。

また久米さんによると、式根島の池田清江さんから「島は異常な西風が吹いてます。桟橋で釣った魚を送りたいが、船が欠航し残念。皆さんはおケガたりませつけて」とメールがあったとのこと。

/月10日(金)晴。朝、「風花(ひざなは)」が舞っていると久米さん。指先が冷たく遅ぱり、作業にならない。

この日は余計な竹を切る。原田さんが切った竹を若林さんが道路まで運び出し、竹中、山崎さんとぼくが枝葉を払う。木さに応じ2~8mに切断した竹は、ネットを張った時、裾の重しとする。

(昼)芋汁、青菜とり肉炒めに柿なます。

森駅で人に見送られ帰途につく。森地駅では、ホームで手を振る姿が300m近くにわたって見えたが、森駅では発車するとすぐカーブで見えなくなり、つまらない。

天安線の車中、正士さんに原田さんに電話。また会えるが、お元気だ。

次回は、5月6~8日、竹中さんの小屋とり壊しの予定。